



「長距離走者の孤独」
 アラン・シリトー著
 大人になる前の人が
 共感できるロックな物語。

9
S



**「世界でいちばん
 貧しい大統領のスピーチ」**
 ムヒカ述
 見失いがちなものに気づか
 せてくれます。

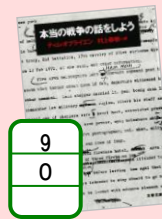
726
M



「ぼくはイエローでホワイトで、ちょっとブルー」
 プレイディみか著
 ◆多様性について考えさせてくれます。
 ◆多様性とはどういうことが深く考えることが
 できます。

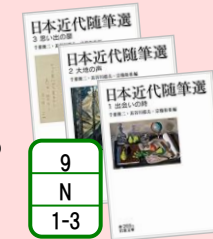
376
B

2人の先生から
 おすすめ!



「本当の戦争の話をしてよう」
 タイム・オブライエン著
 戦争が人の心に及ぼすもの
 を考えさせられます。

9
O



「日本近代随筆選1~3」
 千葉俊二ほか編
 ものの見方・考え方を広
 げる参考になります。

9
N
1-3



「夜のピクニック」
 恩田陸著
 共感できることが多く
 楽しく読めます。

9
O



「台湾生まれ 日本語育ち」
 温又柔著
 台湾人作家が自分のルーツ
 を語ったエッセイです。母語と
 は何かを考えさせられます。

914
O



**「1分で大切なことを
 伝える技術」**
 斎藤孝著
 初対面の人とコミュニ
 ケーションを取るヒント
 にもなります。

361
S



「日本辺境論」
 内田樹著
 大学入試に臨む高校生と
 して読んでおくべき常識的
 知見が凝縮されています。
 「日本人論」としても興味
 深く、面白い。

361
U



「学び続ける理由」
99の金言と考えるベンガク論。」
戸田智弘著
なぜ数学を学ぶの？なぜ読書は大切な？などの答えがそこに！気になった言葉や偉人からページをめくってみよう。

002
T



「伝える力2」
池上彰著
社会人向けですが、高校生にとってもなるほどなあと思えることがたくさんあると思います。

336
I
2



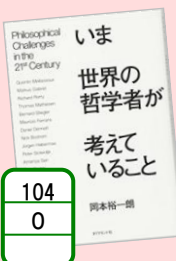
「風の歌を聴け」
村上春樹著
1970年夏、あの日の風は、ものうく、ほろ苦く通りすぎていった。僕たちの夢は、もう戻りはしない。群像新人賞を受賞した村上春樹のデビュー作です。

9
M



「ジェダイの哲学」
ジャン＝クー・ヤーガ著
スターウォーズの名シーンをもとに「生きることとは何か」を考える哲学の入門書です。倫理で触れる哲学とまた違った哲学という学問を体験してみてください。フォースとともにあらんことを！

778
Y



「いま世界の哲学者が考えていること」
岡本裕一朗著
進歩する科学技術とそれに関わる生命倫理など、今後の世界で考える必要のある「人間とは何か」という課題をダイジェストでまとめた専門書。

104
O



「ハードワーク」
エディー・ジョーンズ著
様々な努力をする上で、自らが準備しておかなければならない心構えを、明確に述べられている著作。自らの成功を目指すための道筋を学べるものです。

783
J



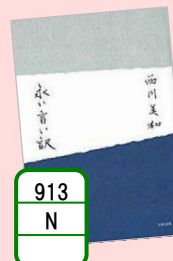
「ロスジェネの逆襲」
池井戸潤著
あの半沢直樹が証券子会社に出向した！出向先で起こる不条理な嫌がらせなどに、半沢は今日も立ち向かう。働くとは何か、人間としてどうあるべきか、そんなことを考えさせられながらも、痛快な半沢に魅了される一冊です。

9
I



「キッチン」
よしもとばなな著
すーっと流れるように物語が自分の中に入り込んでいきました。大切な人を亡くしたあとのヒンヤリとした感覚や家族と接したときに感じるほんわかとした感覚がずっと続き、瑞々しさを感じる物語です。一緒に収録されている「ムーンライト・シャドウ」も切ないけれども、ぜひ読んでほしい物語です。

9
Y



「永い言い訳」
西川美和著
生きるとは何か、愛するとは何か、そして、自分が自分であるためにどう向き合うのか、そういうことを考えさせてくれる一冊です。

913
N



「キャラ絵で学ぶ！ 仏教図鑑」
山折哲雄監修
日々の生活にある仏教とのかかわりのある習慣を学ぶことができる一冊です。

180
K



「生まれてバンザイ」
俵万智作著
心温まる歌集だと思えます。

911
T



「センス・オブ・ワンダー」
レイチェル・カーソン著
きれいなものを見たとき、きれいだな、と思う心。大人になるにつれていつの間にか忘れてしまう感覚。それらを思い出させてくれる本です。

404
C



「鏡の法則」
野口嘉則著
何か辛いことが起きたとき、実は自分の中の気づいていない思いがその原因になっていることがあります。短い物語でそのことを理解できるととても素敵な1冊です。

159
N



「彗星物語 上・下」
宮本輝著
ハンガリーからの留学生と日本の家族そして1匹のビーグル犬の交流を描く物語の中で一人の少年が成長していく姿に共感し、自分も頑張ろうという気持ちになる本です。

9
M
1-2



「重力ピエロ」
伊坂幸太郎著
兄は泉水、弟は春、優しい父、美しい母。連続放火と火事を予見するような謎のグラフィックアートの出現。そして、そのグラフィックアートと遺伝子のルールの奇妙なリンク。未知の感動のある小説です。

9
I



「常設展示室」
原田マハ著
その絵は、いつでもあなたを待っている。パリ、NY、東京。世界中の美術館の片隅で繰り広げられる人間ドラマを描く極上の6篇。

913
H



「進化する強さ」
クルム伊達公子著
37歳にしてプロに復帰したテニスプレーヤー。10代で活躍していたときのメンタルの変化や1つのことにかける思いを感じて勇気をもらえる一冊。スポーツをする上で日々進化を続ける強さの秘密を探る。

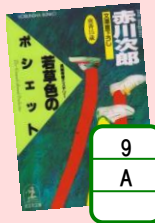
783
K



「思考の整理学」
外山滋比古著

大学やその先で求められている「学び」に対する姿勢がどのようなものかが分かる。そして、考えることの楽しさを教えてくれる一冊。

1
T



「若草色のポシェット」
赤川次郎著

杉原爽香。十五歳の秋。「学校で会いたいな」土曜の深夜、爽香が受けた電話は、行方不明中の親友からだった。学校へ急行した爽香は、教室で親友の死体を発見する。近くには若草色のポシェットが落ちていた。主人公が毎年読者とともに成長するシリーズの第1弾！

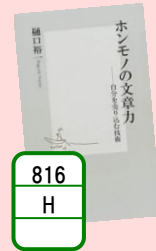
9
A



「バッテリーウォーズ」
次世代電池開発競争の最前線
スティーヴ・レヴィン著

2019年のノーベル化学賞にはリチウムイオン電池の開発者たちが選ばれました。「次世代電池開発競争の最前線」と言っても科学技術の専門書ではなく、開発競争のハラハラドキドキのノンフィクションの読み物。

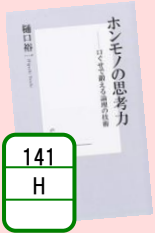
572
L



「ホンモノの文章力」
樋口裕一著

受験関係者から「小論文指導の神様」と呼ばれる著者が、小技の利いたレポート・投書・自己推薦書や、説得力のある手紙・メールの書き方を教える。

816
H



「ホンモノの思考力」
樋口裕一著

二項対立思考、型思考、背伸び思考といった著者独自の的方法論で、知的に見える話し方や他人の意見の知的な分析方法、スロイ質問や反論の仕方などを伝授する。

141
H



「女性の品格」
坂東眞理子著

ビジネスから装い、話し方、恋愛にいたるまで、女性としての振舞い方を具体的にアドバイス。何げない日常の立居振舞いに、女性の生き方と品位はおのずと表われるものである。

159
B



「大人になる前に」
身につけてほしいこと
坂東眞理子著

ちょっとした「心の持ち方」を若いときに習慣にして、豊かな人生を生きてほしいとの願いをこめて綴った書。中高生から大人まで、どの年代が読んでも気づくことがある生き方・考え方エッセイ集。

159
B



「東大脳の作り方」
安川佳美著

難関大学突破の鍵となるのは子どもの資質か、親の力か？19歳の東大理科3類現役学生が自らの生き立ちを通して語る異色の子育て論。

376
Y



「現代語訳 学問のすすめ」
福沢諭吉著・齋藤孝訳

本書は歯切れのよい原書のリズムをいかしつつ、文語を口語に移した現代語訳である。国家と個人との関係を見つめ、世のために働くことで自分自身も充実する生き方を示した彼の言葉は、全く色あせないばかりか、今の時代にこそ響く。読めば時代情勢を的確に見極め、今すべきことを客観的に判断する力がつく。現代にいかすためのポイントを押さえた解説つき。

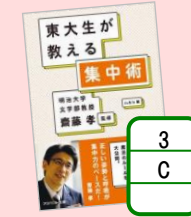
002
F



「勉強大全 ひとりひとりにフィットする1からの勉強法」
伊沢拓司著

東大生クイズ王・伊沢拓司が、自身の「勉強法」を一から解き明かします。高校時代、クイズ界で「知識のモンスター」として名を成すも学業がおろそかになり、成績は学年で下から数えるほどに。そこから東大受験突破にいたるまでに伊沢氏が分析し、実践した「勉強法」を伝授します。

376
I



「東大生が教える集中術」
cubix編 齋藤孝監修

東大生へのアンケート調査と取材により、受験勉強に不可欠な「集中力」を育てる最強のアイデアを一挙大公開！「面倒くさい」を禁句にせよや「情報源はなるべく一元化せよ」など、東大志望者だけでなく、資格取得を目指すビジネスマンまで広く活用できる情報が満載。また、明治大学文学部の齋藤孝教授が、自身の東大合格の体験をもとに語る「集中力アップの勉強術」も同時収録。

3
C



「怪異考/化物の進化」
寺田寅彦著

日本に古くから伝わる怪異の伝承について、物理学者でもある作者が化学的な考察も交えて解説した作品です。

3
T



「砂漠」
伊坂幸太郎著

大学で出会った5人の男が、自らの未熟さに悩み、過剰さを持って余し、それでも何かを求めて手探りで先へ進もうとする爽快感溢れる長編小説です。

913
I



「特急「しなの」21号殺人事件」
西村京太郎著

通勤の車窓から眺める溪谷がストーリーを思い起こさせます。

913
N



「1冊読み切る読書術」
齋藤孝著

「本を買ったはいいけれど、読めない！」そんな方にお勧めしたいです。

019
S



「東日本大震災伝えなければならぬ100の物語 5 放射能との格闘」
学研教育出版

震災時、決死のミッションを果たした陸上自衛隊。身の安全よりも国民を救助することを優先した彼らの想いが書かれています。

369
G
5



「オリヴァートウイスト 上・下」
チャールズ・ディケンズ著

19世紀イギリスの様子がわかります。階級の問題、子どもたちの生活の様子が思い浮かびます。ディケンズの作品の魅力の一つが挿絵です。挿絵から、当時の様子が思い浮かびます。

9
D
1・2



「本当の「頭のよさ」って
なんだろ?」

齋藤孝著
人生におとずれる多様な困難に打ち勝つ「タフな頭」を鍛えよう。

159
S



「夜行」
森見登美彦著

古い仲間たちが久しぶりに集まり、次々に不思議な体験について語り始めます。最後に謎は解けるのか、クライマックスが見ものです。

913
M



「コミュニティデザインの時代」
山崎亮著

社会で生きる、ということに新しい見方を与えてくれると思います。

318
Y



「脳はなにげに不公平」
池谷裕二著

脳科学者の作者が書いた、脳に関するコラムを集めたものです。題名に「なにげに」というくだけた言葉が入っているのは、気軽に読んでほしいという作者の狙いだと思います。一つの話題が2ページぐらいなのでとても読みやすいです。

491
I



「和菓子のアン」
坂本司著

高校卒業後に何をしたら良いのか、ぼんやり考えている等身大の主人公の姿に共感を持って、読みやすいです。

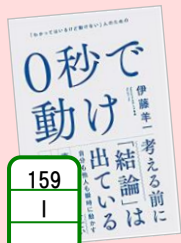
9
S



「Presents」
角田光代著

プレゼントにまつわる心温まる短編集です。

9
K



「0秒で動け ～「わかってはいるけど動けない」人のための～」
伊藤羊一著

「早く動いた方がいい」とは思ってもなかなか動けないこと、ありますよね。気持ちはそうでも心配だったり納得していなかったり…。この本で直ぐ動くための「マインド」と「スキル」を紹介します。「直感→仮説→行動」のサイクルを早くする、論理的に「直感と行動」をつなぎ「早く正しく動く」ための方法が身に付きます。

159
I



「何でも見てやろう」
小田実著

海外旅行がまだ一般的でなかった時代、著者は好奇心のみで世界をみて周った。行動力のすごさに感服する豪快な旅行記。

9
0



Memo

Blank lined area for writing a memo.